

## 怠惰に対する警告

鍵となる聖句：「わたしはあなたがたにすべてのことを示しました。すなわち、このように労苦し、弱い者を支え、主イエスの言葉を覚えておくべきであることを。主イエスはこう言われました。

『与えることは受けることよりも幸いである』と  
。」

使徒行伝 20:35

選読箇所：

使徒行伝 20:33-35 ; テサロニケ人への手紙第二

3:6-12

使徒パウロは、第三回伝道旅行の終盤に、港町ミレトスに到着した。船の出発を待つ間、彼は近くのエフェソスの長老たちに、会いに来てくれるかどうか尋ねる便りを送った。これがパウロが彼らに会う最後の機会となるはずだった。

長老たちが到着すると、パウロは「私があなたがたの間で、謙遜と涙と試練の中で、主に仕えて過ごしてきた生活」を振り返った。そして、「私は公の場でも、あなたがたの家でも、あなたがたを教えることを決してためらわず、ユダヤ人であろうとギリシア人であろうと、神に立ち返り、私たちの主イエスを信じる必要性を力説してきた」と述べた。使徒行伝20:18-21

パウロは長老たちに、「あなたがた自身と、すべての群れに注意を払いなさい」と、「神の教会の羊飼いとして務めなさい」と促した。（使徒20:28

）。ここでパウロは、長老たちが自分自身と、主が彼らを副牧者として任じられた兄弟たちとの双方に対して、二重の責任を負っていることを指摘している。「注意しなさい」、すなわち、自分の行いだけでなく、その動機についても警戒し、吟味しなさいということである。

そしてパウロは彼らにこう言い聞かせた。「私は、だれもの銀や金や衣服をも欲しがったことはありません。あなたがた自身も知っているとおおり、この私の両手は、私自身の必要と、私と共にいる人々の必要を満たしてきました。」（使徒**20:33,34**）。パウロは生業として「天幕職人」であり、他の人々に福音を宣べ伝え、教える一方で、自らの生活必需品を賄うために、「あなたがたに負担をかけないため」に「昼も夜も働いた」と証言しています。使徒行伝**18:3**、テサロニケ人への手紙第一**2:9**、テサロニケ人への手紙第二**3:8**、コリント人への手紙第一**4:12**

別の訳から今日の聖句を引用すると、パウロは次のように締めくくっています。「私はあらゆる点であなたがたに模範を示しました。私がこのように働くのを見て、あなたがたも弱い者を助け、主イエスの御言葉を心に留めるべきであることを示したのです。主ご自身が、『与えることは受けることよりも幸いである』と言われたからです。」たとえ与えるお金がなくても、私たち一人ひとりに、他者に対して寛大になる機会は豊富にあります。同情や励ましの言葉、あるいは単に優しい眼差しさえも、落胆している人にとっては、一握りの金よりも価値があることがあるのです。

「与える人」であるということは、自分自身よりも、他者とその必要についてより多く考えることを意味します。「怠惰」であることは、与える人であることの正反対であり、一種の利己主義であり、靈的な弱さにつながる可能性があります。（テモテへの手紙一 5:13）。パウロは怠惰を働く兄弟たちに対して大胆に語り、「働こうとしない者は、食べることもあつてはならない」と述べ、「静かに働き、自分のパンを食べる」よう戒めました。テサロニケの信徒への手紙二 3:7-12

幸せなクリスチャン生活における重要な要素の一つは、他者に対して「心から」与える術を身につけることです。「神は喜んでする献げ物を愛されるからです。」（出エジプト記25:2；2コリント人への手紙9:7）。そうすることで、私たちは神に似ていきます。なぜなら、神こそが最も偉大な与え主だからです。「神は、御独り子をお与えになった。それは、御子を信じる者が一人として滅びることなく、永遠の命を得るためである……世界が御子によって救われるためである。」ヤコブの手紙1:17；ヨハネによる福音書3:16,17